

## 日常の水意識

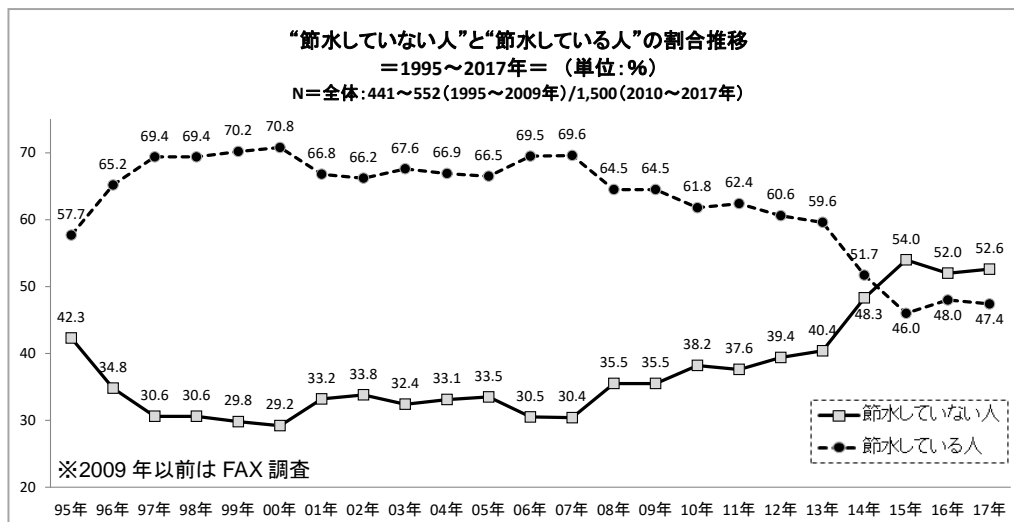
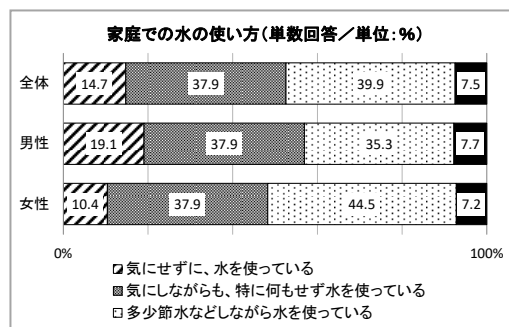
当センターでは、本調査を開始した1995年以降、日常の水意識として「家庭における水の使い方」の実態を経年で追っています。この設問における“節水していない人”（「節水・再利用は気にせず水を使っている」と「節水・再利用を気にしながらも、何もせず水を使っている」の合計）の割合は、1995年から2013年までは30～40%台前半で推移していましたが、近年は5割を超え、節水意識の低下が顕著に表れています。このような状況の中、数値の動向を見るべく、今年も調査を行いました。

また、下水道施設をはじめとしたインフラの老朽化が急速に進み、東京都では下水道事業への関心を喚起するためのプランを策定するなど、その対策への取り組みが始まっていることを踏まえ、今回は下水道に関する認知や実態を探るための調査も実施しました。

### Q.水の使い方は？（4択）

#### ◇“節水していない人”が5割台で推移

結果は、「節水・再利用のことは気にせずに水を使っている」（14.7%）が昨年から0.8ポイント減少したものの、「節水・再利用は気にしながらも、特に何もせず水を使っている」人（37.9%）が昨年から1.4ポイント増加し、この両者を合計した“節水していない人”は52.6%（昨年比0.6ポイント増）とほぼ横ばいで、依然として5割を超える結果となりました。

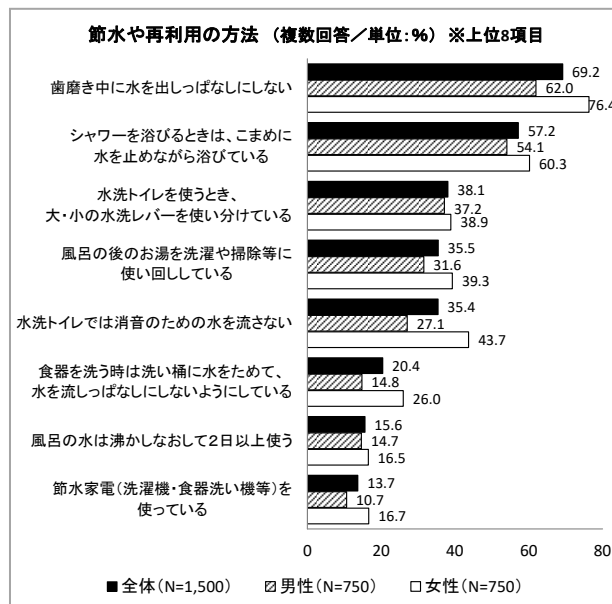


### Q.節水や再利用の方法は？（13択＋その他＋特にやっていない）

#### ◇1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」、2位「シャワーの時にこまめに水を止める」、3位「水洗トイレの大小レバーを使い分ける」も、男女別の数値に差異

具体的な「節水や再利用の方法」については、1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」（69.2%）、2位「シャワーの時にこまめに水を止める」（57.2%）、3位「水洗トイレの大小レバーを使い分ける」（38.1%）となり、4位「風呂の湯を洗濯や掃除に使い回す」（35.5%）、5位「水洗トイレで消音のための水を流さない」（35.4%）と続きました。

男女別では、上位5項目は男女とも全体と同様でしたが、それぞれの数値に目を向けると、「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」は男性62.0%、女性76.4%で14.4ポイント差、「水洗トイレで消音のための水を流さない」は男性27.1%、女性43.7%で16.6ポイントの開きがあるなど、両者の取り組み率に違いが見られました。



## 沖大幹先生による解説 ～Oki's View～ ①

### 【節水意識】

「歯磨き中に水を出しっぱなしにしている」人が約3割もいる。もしかして歯磨きにほとんど時間をかけていないのだろうか。歯の健康という観点からも、水を出しっぱなしにしていなくても気にならないほど簡潔な歯磨きは見直した方がいいのではないだろうか。

「水洗トイレで消音のために水を流さない」と答えたのは男性27%、女性44%(3頁・下図参照)。残りの男性73%、女性56%は流しているのだろうか？なぜ男性の方が流さない、と答えた数が少ないのだろうか？もしかして、男性の方が恥ずかしがり屋なのか？ちなみに、「外国人に紹介したい日本のトイレ」の質問で流水音の擬音装置機能と答えたのは男性11%女性29%(6頁・左図参照)なので、女性が気にしていないわけでもなさそうだ。

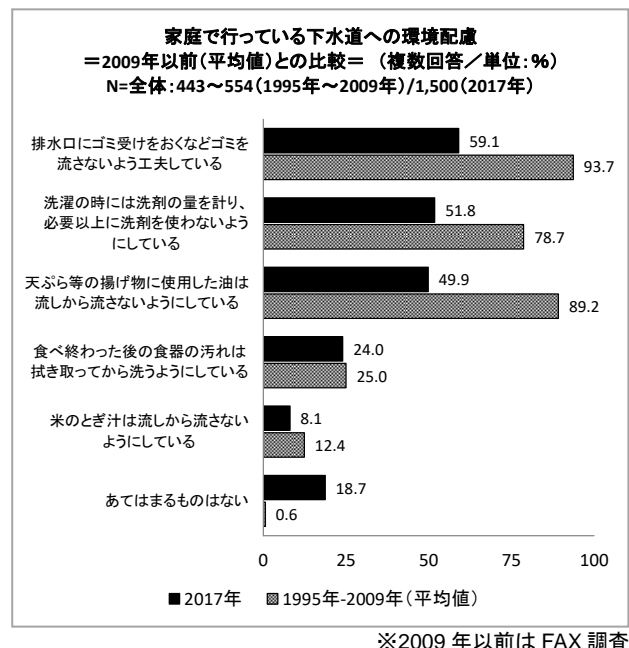
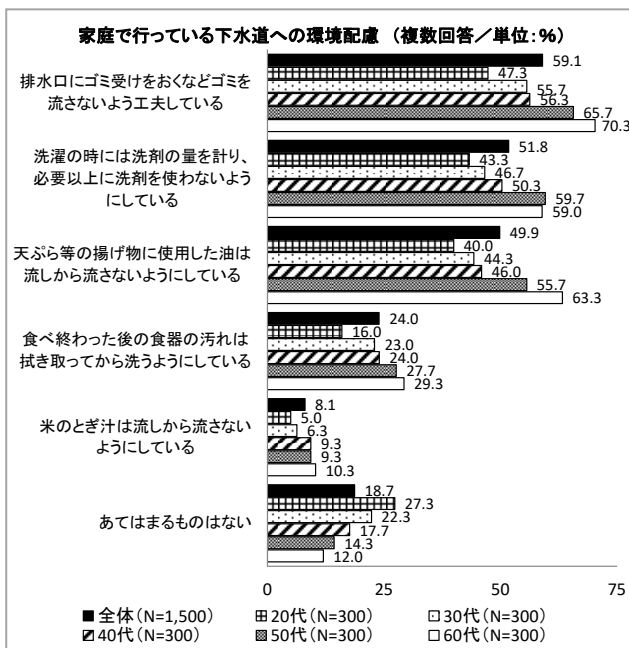
節水家電を使っていると答えた方は14%(3頁・下図参照)。しかし、洗濯機はどれを買っても以前に比べると圧倒的に必要水量が減っている。ご自身が使っている家電が節水家電であるという点に気づいていない、という方も多いのではないだろうか。自覚なく節水が進むというのは悪いことではないだろう。

## Q.自宅での下水道への環境配慮は？ (5択+あてはまるものはない)

### ◇2009年以前との比較で、全体的にどの配慮項目も数値が低下

下水道への環境配慮に関して予め項目を提示し、家庭で取り組んでいる事柄を聞いたところ、①「排水口にゴミを受けおこなどゴミを流さないよう工夫している」(59.1%)が最も多く、②「洗濯時に、必要以上に洗剤を使わないようにしている」(51.8%)、③「天ぷら等の揚げ物に使用した油は流しから流さないようにしている」(49.9%)と続き、全体の約2割が「あてはまるものはない」(18.7%)と回答しました。

ちなみに、本設問と同様の調査を行った1995年から2009年まで15年間の平均値は、上記①が93.7%、②78.7%、③89.2%と、調査手法の違い(2009年まではFAX調査)はあるものの、約10年で数値が大きく変化しました。この変化が経年によるものなのか、当センターとしては来年以降の推移にも注目していきたいところです。



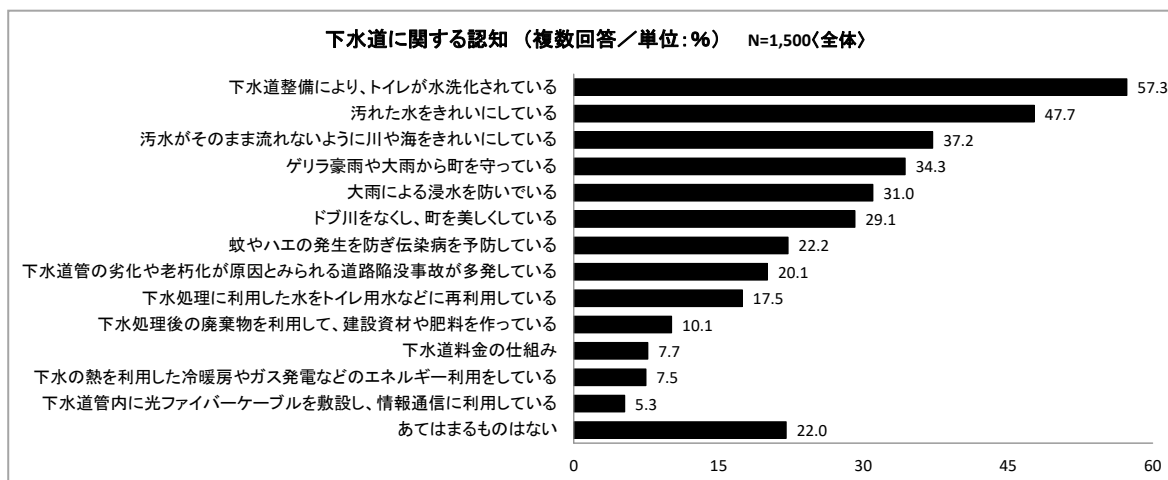
## 沖大幹先生による解説 ～Oki's View～ ②

### 【水質保全への配慮】

ショックである。「排水口にゴミや天ぷら油などを流さない」というのは家事の基本かと思っていたが、20代の半数以上が実践していないのだろうか。下水道が完備され「どうせきちんと処理されるだろうから」と思っているのかもしれないし、 DISPOSER が普及しているからかもしれない。生活排水で汚れた川が少なくなって、危機感が乏しいということも影響しているのかもしれない。

## Q.下水道に関して知っていることは？（13択＋あてはまるものはない）

◇約5人に1人が「あてはまるものがない」と回答。「下水道料金の仕組み」を知っている人は1割未満  
次に今回初めて、下水道の役割などに関する事柄について、予め項目を提示した上で知っていることを尋ねたところ、1位「下水道整備により、トイレが水洗化されている」（57.3%）、2位「汚れた水をきれいにして」（47.7%）、3位「汚水がそのまま流れないように川や海をきれいにして」（37.2%）となりました。なお、「下水道料金の仕組み」（7.7%）については1割に届かず、「あてはまるものはない」（22.0%）が全体の2割を超える結果となりました。



## 水と生活・文化

東京オリンピック・パラリンピック開催を2020年に控え、訪日外国人観光客が年々増え続けており、昨今のインバウンド市場では、“モノ消費”のみならず“コト消費”にも注目が集まっています。当センターでは2015年より、「水と関わりの深い日本の文化」の調査を行ってきましたが、今年はこれに加え、多くの訪日外国人が驚嘆するという日本の「トイレ」と「温泉」について、外国人に紹介したい誇れることを新たに調査しました。また、「最もみずみずしいと感じる有名人」についても、10年ぶりの調査を実施しました。

### Q.水と関わりの深い日本の文化は？（16択＋その他＋特になし）

### Q.外国人に紹介したい「水と関わりの深い日本の文化」は？（16択＋その他＋特になし）

◇ともに、「そのまま飲める水道インフラ」が3年連続1位

①「水と関わりの深い日本の文化」と②「外国人に紹介したい水と関わりの深い日本の文化」、それぞれトップは「そのまま飲める水道インフラ」（56.1%、43.1%）で、ともに2015年の調査開始以降、3年連続の1位となりました。

なお、昨年選択肢として新たに追加した「清潔で機能が充実した水洗トイレ」は、上記①では昨年比5.6ポイント増の45.1%で2位となり（昨年は39.5%で4位）、②では3.2ポイント増の30.3%で4位でした（昨年は27.1%で6位）。

